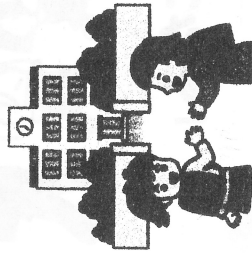


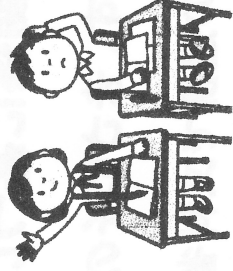
学校は 地域の宝 地域の絆



～統廃合で地域に学校がなくなったり、小中学校を一緒にする教育って、

子ども・住民にとって本当にいいの？～

どうもまだ疑問が
いっぱいなのはどう？



*駐車場として宮前広場もOK

日時： 2月5日(日) 14:00～16:00

場所： 深川公民館 大会議室

パネラー： 山口 正 先生 日本福祉大学子ども発達学部教授

道泉・深川・古瀬戸 地区等からの地域の方々
浅井寿美さん 瀬戸市議会議員

コーディネーター： 川口 洋 先生 愛知工業大学准教授

瀬戸市は祖東・本山の2中学校と5小学校を1つにする計画を進めています。・・・でも、住民合意ができていません！

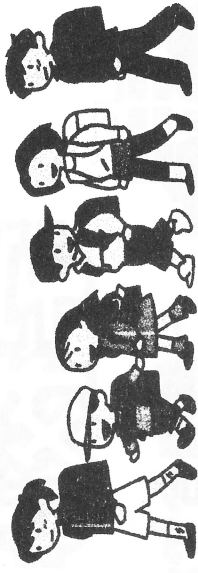
子どもと地域の未来は今の大人たちの責務。 学び合い、手をつなぎ合いましょう！

台風や地震のときにお迎えが大家
になりそう！

小一と中三が一緒に朝の集会な
どをするのかな？

若い人たちが住むかな？
街作りはどうなるの？

学校統廃合は地域住民の願いからなのか？



WHO(世界保健機構)は「生徒100人を上回らない規模が理想」

「人間的な関係に基づいた個性的な教育は、こうした条件のもとで初めて可能になる」

としています。まさにその実例が、本山中に…。

地域の方との連携で文科省からも表彰されました。瀬戸らしさの中心地の本山中をなくしてもいいの？

○学校統廃合のもともとは、国の財政削減の一環

先生がますます多忙には

瀬戸の場合 教員定数 小中で56人(現在)→34人に(とくに小学校教員定数が現在の1/2に削減)

学校数 中2校+小5校(現在)→1校に(6校が消え、維持管理建てかえ費が削減)

○「小中一貫校」という目新しさを統廃合校の住民説得に利用

でも・・・今ある問題は小中一貫校にすれば解決するのか？

さらなる問題も？ 通学路や建設予定地の北側・南側は危険地域が散在(瀬戸市の防災地区カルテより)

2017 年 月 日

瀬戸市議会議長

戸田 由久 様

道泉連区学校を守る会

伊藤 秋光

瀬戸市進陶町 147-4

瀬戸市小中一貫校施設整備計画の見直しを求める請願書

請願主旨

瀬戸市が現在進めている小中学校 7 校を 1 校とする計画は、十分な検討もないまま強引に行われています。今回の計画で小中学校が統廃合されることに対して、私たちは 2 つの重大な懸念を抱いています。

ひとつは今回の計画が道泉連区の子どもたちと地域にもたらす負の影響です。まず通学距離・時間が非常に長くなることで、子どもたちの健康や外遊びや学習にも影響します。また、長年地域と学校が協力してつくってきた子どもたちのための環境、取り組み、行事がなくなり、学校を中心とした地域の絆が弱まることです。道泉小学校と本山中学校は地勢的にも瀬戸市の中心部にあり、さらに瀬戸市の観光資源が点在し、歴史文化の趣を色濃く残すこの地域においてはこのまま計画が実行されればこの地域から子どもたちは姿を消し、学校近隣を理由にした人口流入は見込めなくなり、瀬戸市中心部の空洞化にますます拍車がかかることは間違いありません。

もう一つの懸念は、市が地域住民の疑問や願いに十分に応えることなく、住民の理解や納得が得られなくても一方的に計画を進めていることです。これまで瀬戸市全体の小中学校の在り方を検討することもなく、昨年 3 月末に突然計画が発表され、6 月の地域説明会から 1 年に満たない余りに短い期間で、住民合意のないまま進めていく瀬戸市の姿勢に不信感を抱かざるを得ません。

「道泉連区学校を守る会」は以上のような理由から、瀬戸市に対して現計画の見直しを求めるとともに、瀬戸市全体の繁栄を望んでいます。

私たちはこの地域の子どもたちの学びと暮らし、街づくりの両面から、以下の事項について要請します。

請願項目

- 一、子どもたちのためにモデル地区の変更など、瀬戸市小中一貫校施設整備計画の見直しを行うこと。
- 二、地域住民の理解と納得が得られないまま、瀬戸市小中一貫校施設整備計画を進めないこと。

氏 名	住 所